



ふるさとを
たずねて

稲荷神社 (流宮)
ながれみや

松前町文化財保護審議委員

水口 秀治

稲荷神社は岡田小学校の東、出合橋の南の西高柳130番地にある。

主祭神は倉稲魂神、配神は田中神・猿田彦神などである。

境内社には素鷲神社・金刀比羅神社など多くの社がある。

聖武天皇の神亀5年(728)造化の神、五穀の神として鎮座されたと伝えられ、高柳大明神と号したが、元暦元年(1184)流宮五社大明神と改称した。享保2年(1717)稲荷社を御請し、

稲荷五社大明神と改め、後に稲荷大明神、更に稲荷神社と改称した。

高倉天皇の仁安3年(1168)社地内の桜木の森に神霊があらわれ、光明が輝き、夜毎、樹で物を量る映像が見え、そこに御神体を発見したといわれる。このことにより高柳大明神と呼ばれたことになった。

安徳天皇の元暦元年(1184)当地方の洪水に際し、神霊が桜木の森に流れつき、光明が輝いて四方を照らし、また、後龜山天皇の応安7年(1374)の洪水に際しても楠の巨木に神霊が流れつき、光明が輝いて地域の人々を守った。

これらの洪水による神霊出現伝承により今もなお、多くの人たちに「ながれみや」と親しみをもつて呼ばれている。

古くから五穀豊穡を守る神として、また、上高柳・西高柳・昌農内・北川原・塩屋の人たちの氏神として尊ばれてきた。

絵馬はすぐれたものがあり、赤穂浪士の全絵像も完備している。常緑の社叢は古く、中でも楠の巨木は珍しい。

また、白く100メートルにおよぶ長い参道には、よく手入れのされた美しい松並木がある。この松並木は当地方では屈指のもので、毎年の手入れは、地域の人たちの「ながれみや」

に対する崇敬の念の表れと思う。

いつもでも大切ににし、後世に残していきたいものである。

稲荷神社の参道



稲荷神社の参道

ふるさと歴史散歩④

高忍日売神社・本性寺(徳丸)を探訪

(松前史談会レポート)

気持ちの良い朝、高忍日売神社の広い境内の半分を覆わんばかりの御神木(大楠)を見上げながら集合。宮総代をはじめ地元からの参加者も多く、総勢26名となる。宮司から神社の由来、多数ある境内社・句碑・記念碑・徳丸地区の成り立ちなどのご説明があった後、拝殿でお祓いを受けた。

1. 高忍日売神社

- ① 最近修復された回廊には、赤穂四十七士の掲額が有る。回廊が破損除去された後、大切に収納されていたため保存状態が良い。天野屋利平の額が含まれているのが興味深い。
- ② 水野広徳の撰「暗渠埋設碑」が南面して立ち、玉垣の外から見ることができる。「夫レ水利ハ農村ノ生命ナリ……」に始まる碑文に、穀倉徳丸を築いた先人の苦心を知ることができる。
- ③ 今回初めて教えていただいたのが、2本の楠の枝が数メートル上で繋がっている“連理”の存在である。「比翼連理」は、夫婦仲が極めて良い喩えであるが、奇跡の実在である。

2. 本性寺

- ① 山門を入ると蓮池があり、夏には古代蓮(大賀蓮)が大輪の花を咲かせる。
- ② 加藤精神像。仏教界・教育界の偉大な存在である加藤精神大僧正は、徳丸の出身である。総本山奈良長谷寺化主となり、大正大学・東洋大学学長も歴任された。



高忍日売神社神殿前参加者一同

高忍日売神社 大楠の神木

11月のふるさと歴史散歩は、休みです。
問い合わせ 松前史談会(鷺野) ☎984-5439